

至民中学校 環境学習プログラム学校訪問 結果報告書

[日 時] 令和4年12月14日(水) 13:30~15:00

[出席者] (1) 学校側出席者 至民中学校校長、教頭、担当教諭、社南地区自治連合会長
 (2) 市側出席者 福井市環境学習プログラム学校訪問員1名、
 福井市学校教育課職員1名、環境政策課職員2名

[訪問内容] ・福井市環境学習プログラムにかかる取組の確認
 ・環境委員会等による環境取組の見学(校内巡視)

[講 評] ※ESDのポイントを踏まえ取り組まれているかを中心に講評しています。

<能力・態度>

批判的に考える力	①
未来を予測して計画を立てる力	②
多面的・総合的に考える力	③
コミュニケーションを行う力	④
他者と協力する態度	⑤
つながりを尊重する態度	⑥
進んで参加する態度	⑦

<概念>

多様性	①
相互性	②
有限性	③
公平性	④
連携性	⑤
責任性	⑥

概念を理解するために必要な(身につけるべき)能力・態度

I	環境の取組	能力・態度	概念
	≪ものを大切にする心・エコロジー意識の育成≫ ・全教科を通して、資源の有限性についての学習をし、ものを大切にする心を身につけます。 ・学校全体で、ゴミの分別を徹底させ、減量化に努めます。 ・環境委員が中心となって、エコ啓発活動を行い、学校全体のエコロジー意識を高めます。	②、③、④、⑤、⑦	③、⑤、⑥
		所感	
		学校訪問当日は、秦校長・教頭・担当教諭から、至民中学校における環境ISOへの取り組みの説明を受けたが、オリジナルの参考資料が準備・配布されたこととあいまって、とても具体的で分かりやすい内容であった。 そののち、学内を巡視し、狐川の再生事業(県土木事務所・狐川流域まちづくり協議会や社南公民館に至民中学校が協力)や狐川の環境調査活動報告のパネルやごみ分別BOXの事例などを確認した。 また、環境委員会や理科係会などは自主的な取り組みの中にも有機的に連携して活動しており、ヒマワリ生育失敗事例も含めて体験の共有が図られていることを高く評価したい。	

		ごみの分別活動などは地道な取り組みだが、最も分かりやすい環境活動の一つであり、今後とも、継続して行ってほしいと考える。	
Ⅱ	環境の取組	能力・態度	概念
	《環境学習》	③、④、⑤、⑥、⑦	②、③、⑤、⑥
	・校舎敷地内の美化活動を通して、生命や自然の大切さを学びます。 校外学習を通し、地域の自然環境について学ぶ環境教育を推進します。	所感 南江守生産組合の協力を得て、付近の水田での田植えから稲刈りに至るプロセスを体験させたうえで、収穫したコメ（いちほまれ）を、全生徒に配布し、家庭に持ち帰って食べさせる取り組みは、食と環境を考える面からも画期的な事業であり、大変だと思うが、ぜひ、今後とも続けられるよう希望する。	
Ⅲ	環境の取組	能力・態度	概念
	《地域と連携した環境保全活動》	③、④、⑤、⑥、⑦	②、③、⑤、⑥
	・学校の取り組みを家庭と共有し、環境への意識を高めます。	所感 狐川・コメ作りと視点が共通するが、地域の協力を得ての「社南探検隊」事業は、体験学習としても意義深いものであり、ぜひ、今後とも続けられるよう希望する。	
Ⅳ	その他の所感		
	福井市に提出した学校版環境 I S O の実施計画書の記載内容以上に、広範囲かつ熱心に環境に関する取り組みを展開しており、全体として高く評価すべき学校と考えます。とくに、公民館など多くの関係先との連携に加え、サポート至民といったオリジナルの仕組みを構築した推進体制の維持とさらなる発展を期待します。 付近を流れる狐川は、固有水源をもたない小河川であり、昭和の終わりころにはユスリカが発生する等の劣悪な環境であったが、地元の狐川を美しくする会などの熱心な活動もあって、今日メダカやホタルが観察されるまでに環境が改善されたことは素晴らしく、生徒たちには 30 数年前の状態を理解させることで、ぜひ関係者の努力を伝承してほしい。 また、今年度から開始された狐川の水質等環境調査については、パックテストでは判断・評価に迷うデータがあつまることも予想されるので、今後、県や市の専門家に相談されるなどして、内容の充実を図るとともにその成果の発信に期待します。 最後に、以下の意見は、学校版環境 I S O に関する学校訪問の趣旨を逸脱するかもしれませんが、これだけのすばらしい環境への取り組みを展開されているからこそ、今後「スクールプラン」にも「環境」を反映させてはどうかと提案します。		

〔訪問の様子〕

